

(別紙様式4)

【職業実践専門課程認定後の公表様式】

令和6年7月31日※1
(前回公表年月日: 令和5年10月31日)

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
中央動物看護専門学校	平成17年3月28日	田村 浩之	〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-43-27 (電話) 027-253-7211																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人 有坂中央学園	昭和40年12月24日	理事長 中島慎太郎	〒371-0844 群馬県前橋市古市町1-49-1 (電話) 027-256-7000																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
文化・教養	文化教養専門課程	動物飼育学科	平成25年度 専門士告示第7号	—																											
学科の目的	動物飼育員として必要となる専門的な知識・技術を学び、動物を安心・安全に飼育できるスキルの習得を目標とする。更に、インターンシップ実習を通して各種動物に合った飼育方法や動物個々の特徴、来場者に対する接客などの幅広い実務能力を習得する。																														
認定年月日	令和6年3月31日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
2	昼間	1950時間	1080時間	480時間	1110時間																										
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
50人	46人	0人	6人	5人	11人																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 期末における筆記試験を実施すると共に授業出席率、受講態度及び課題提出物等を総合的に判断し、評価する。																											
長期休み	■学年始: 4月 1日 ■夏季: 8月 9日～ 8月29日 ■冬季: 12月24日～ 1月 6日 ■春季: 3月18日～ 4月11日 ■学年末: 3月31日		卒業・進級 条件	所定の修業年限以上在学し課程を修了したもの																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 長期欠席者への指導については、随時連絡を取り、面談指導を行う。		課外活動	■課外活動の種類 地域清掃活動、ボランティア活動、各委員会(飼育管理、校内美化)、各実行委員(イベント運営) ■サークル活動: 有																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) 動物園・牧場・ペットショップ等 ■就職指導内容 就職スタートアップ講座、履歴書指導、個別面談、面接指導。 ■卒業者数 22 人 ■就職希望者数 22 人 ■就職者数 22 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 100 % ■その他 (令和 5 年度卒業者に関する 令和6年5月1日 時点の情報)		主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者に関する令和5年5月1日時点の情報)																											
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士2級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>19人</td> </tr> <tr> <td>サロントリマー検定3級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td>ペットフード・マナー検定</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>21人</td> </tr> <tr> <td>動物健康衛生管理検定1級</td> <td>③</td> <td>22人</td> <td>7人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	8人	愛玩動物飼養管理士2級	③	22人	19人	サロントリマー検定3級	③	22人	18人	ペットフード・マナー検定	③	22人	21人	動物健康衛生管理検定1級	③	22人	7人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																												
愛玩動物飼養管理士1級	③	22人	8人																												
愛玩動物飼養管理士2級	③	22人	19人																												
サロントリマー検定3級	③	22人	18人																												
ペットフード・マナー検定	③	22人	21人																												
動物健康衛生管理検定1級	③	22人	7人																												
中途退学の 現状	■中途退学者 3名 令和5年4月1日時点において、在学者21名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者22名(令和6年3月31日卒業者を含む)		■中退率 6.5 %																												
	■中途退学の主な理由 学力不振、精神的不安定、家庭の事情 ■中退防止・中退者支援のための取組 担任制、学習目標の設定・管理、個人面談、保護者連携、出席管理、自宅訪問。																														
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 有坂奨学金基金支給制度: 社会人入試で受験した学生対象に学園が年間10万円の奨学金を支給する制度。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																														
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科の ホームページ URL	http://www.chuo.ac.jp/can/																														

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本学科は職業実践の推進を図るために、本学科と企業等が有する知識・技術・技能を統合し、産学の連携を推進する事により、人材の専門性を向上させ、地域の産業振興や社会貢献を図り、実務実践能力を育成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

委員会は、学校長の統括のもとに、カリキュラム委員会の下部に属し、本校の教育体制及び教育制度の改善・整備に関する実現方策等の検討を行い、取りまとめるとともに、次に掲げる事項について審議及び連絡調整を行う。また、委員会で出された意見は、カリキュラム委員会において検討し、教育課程へ反映される。

- (1) 授業科目の開設に関する事項
- (2) 授業内容に関する事項
- (3) 授業方法の改善・工夫に関する事項
- (4) 教員の実務研修に関する事項
- (5) 学校関係者評価に関する事項
- (6) その他学科及び専門学校の教育に関する事項

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
富岡 健一郎	NPO法人犬の総合教育社会化機構 理事	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日(1年)	①
北村 昭二	群馬サファリパーク 園長		③
鈴木 正知	NPO法人前橋環境保全基地 アリスの森 代表理事		③
滝澤 健太	斉藤牧場 牧場長		③
田村 浩之	中央動物看護専門学校 学校長		
小川 潤	中央動物看護専門学校 副校長		
原田 文博	中央動物看護専門学校 教務部次長		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回 原則、9月・3月

(開催日時)

令和5年度	第1回	令和5年	9月20日	13:30～15:30	開催済み
令和5年度	第2回	令和6年	2月28日	13:30～15:30	開催済み
令和6年度	第1回	令和6年	8月27日	13:30～15:30	開催予定
令和7年度	第2回	令和6年	2月26日	13:30～15:30	開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改定案や今後の検討課題を具体的に明記。

・令和5年度教育課程編成委員会で議論された内容について今後の検討課題として取り上げていきたい。

委員より「学校での取り組みがスポット的に終わらないようにしていただきたい。学生自ら研究課題を見つけて実習先にフィードバックしていただければより良くなると思う。」とのご意見をいただいた。このご意見を受け、学生が興味を持って活動できる指導、学生の学習意欲と状況を変化させていくための仕掛けを考えていきたい。

委員より「動物と対峙する際の安全面を考慮した行動を身につけてもらいたい。本人の安全、周囲への安全、動物への安全に気を配れることが出来ると即戦力になれる。ある程度理論を理解している人は、決められたことだけでなく、プラスアルファの行動が出来る。」とのご意見をいただいた。このご意見を受け、理論を学ぶ上で、興味を持って入り込んでいける授業内容を考えていきたい。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本学科の目的に沿った授業科目を開設し、学生の指導や学修成果の評価等に関する連携体制を確保して、最新の業務を的確に反映した教育を行うため企業等が学習活動に関わり、学習者と企業等が相互理解を深められる学習機会とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

企業と協定を結び、シラバス(講義概要 目的・指導方法・評価方法)に学習内容を掲載し、指導内容を明確にして授業を行う。学生の理解度を把握するために、随時アンケート・テストを実施する。実習・演習の修了時には、実習・演習担当者による生徒の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・単位認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
動物飼育学	展示の目的や動物種ごとの様々な展示方法を学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、野生動物の生態や病気についても学ぶ。	群馬サファリワールド株式会社
校外飼育実習Ⅰ	群馬サファリパーク及び乗馬クラブ高崎にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。	群馬サファリワールド株式会社 有限会社ティーアールシー TRC乗馬クラブ高崎
校外飼育実習Ⅱ	群馬サファリパーク及び乗馬クラブ高崎にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。	群馬サファリワールド株式会社 有限会社ティーアールシー TRC乗馬クラブ高崎

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行なうため教育研修規定を定め、企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識及び技能並びに授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のため組織的に研修機会を確保する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 人と動物の共通感染におけるワンヘルスの考え方 連携企業等: 講師 川合 覚 氏
 期間: 令和5年7月20日 対象: 教務課飼育学科教員
 内容: 感染症の対策として人の健康だけでなく、動物の健康とそれらを支える「ワンヘルス」についてを学ぶ

研修名: 尾瀬は今 連携企業等: 講師 新井 幸人 氏
 期間: 令和5年10月12日 対象: 教務課飼育学科教員
 内容: 地球温暖化、気候変動などが与える尾瀬国立公園に生息する動物の生態系への影響についてを学ぶ

研修名: 群馬県立自然史博物館見学 連携企業等: 群馬県立自然史博物館
 期間: 令和5年11月22日 対象: 教務課飼育学科教員
 内容: 館内(常設展・企画展)・バックヤード見学、実験室における質疑応答

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: ホテルグリーンプラザ軽井沢 ホテルスタッフ研修 連携企業等: ホテルグリーンプラザ軽井沢
 期間: 令和5年8月18日～8月21日 対象: 教務課飼育学科学科長
 内容: ホテルスタッフとしての心得、フロント・大浴場・レストラン・客室業務について

研修名: 教育現場における生成AIの活用とサイバーセキュリティ 連携企業等: 群馬県警察サイバーセンター
 期間: 令和5年8月25日 対象: 教務部部長
 内容: 教育現場における生成AIの活用とサイバーセキュリティについて

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 第31回日本飼育技術学会大会 連携企業等: 日本飼育技術学会
 期間: 令和6年2月26・27日 対象: 動物飼育学科職員
 内容: テーマ:「飼育下生物の繁殖について考える」に参加

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 職業特性を考慮した非認知能力の育成・評価 連携企業等: 福岡大学人文学部教授
 期間: 令和6年8月9日 対象: 全教職員
 内容: カリキュラムの改善及び教職員の教育力の向上に資する研修に参加

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」

(1) 学校関係者評価の基本方針

「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえ、学校の自己評価を実施したうえで、企業等が学校関係者として評価に参画する「学校関係者評価」の実施及び公表を行い、その結果を踏まえた学校運営の改善に取り組む。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	専門分野の特性、学校の理念、目的、育成人材像、将来構想
(2) 学校運営	目的に沿った運営方針、事業計画、規定、コンプライアンス、情報公開
(3) 教育活動	教育課程の編成・実施方針、工夫、開発、外部評価、判定基準
(4) 学修成果	進学率、就職率、資格取得率向上、退学率低減
(5) 学生支援	経済支援体制、健康管理、生活環境支援、卒業生支援、職業教育取組
(6) 教育環境	施設設備の整備、教育体制の整備、防災体制の整備
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の伝達
(8) 財務	財政基盤、予算収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	設置基準の遵守、適正な運営、問題点の改善、自己評価公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献活動、ボランティア活動、公開講座、教育訓練
(11) 国際交流	留学生の受入・派遣、国内外での評価

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

外部の学校関係者評価委員に上記1項目に対し報告を行ったところ、委員による評価は良好であった。中央動物看護専門学校の教育理念・目標についての取り組みは概ね達成しているが、業界研究について業界自体が変わってきているので、関連企業や関連団体などまで広い視野を持っていただきたいとの指摘をいただいた。学修成果について卒業後のキャリア形成として既卒者に対する知識的なサポートや新たな情報等を示す取り組みも良いとの指摘をいただいた。これら指摘事項を踏まえ、社会から求められる人材の育成を継続し、新たな知識・技術を積極的に取り組み反映させる。また、既卒者のキャリア形成への効果を確認し社会人としてのスキルアップに結び付けていきたい。今後、動物業界の変化に柔軟に対応しながら教育目標・計画を設定し、それに沿った教育として「やってみて考える」を実践できる環境づくりを強化することが求められる。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
奥野 征一	ACORN獣医神経病クリニック 院長	令和6年4月1日～ 令和7年3月31日	企業等委員
富岡 健一郎	NPO法人犬の総合教育社会化機構理事		企業等委員
鈴木 正知	NPO法人前橋環境保全基地 アリスの森 代表理事		企業等委員
松本 州史	東京理器株式会社代表取締役		企業等委員
木村 愛美	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
天沼 華奈	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
滝澤 健太	中央動物看護専門学校 卒業生		卒業生
神田 宏	中央動物看護専門学校 保護者会会長		保護者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

令和6年7月公表(学校関係者評価委員会開催後、1ヵ月以内に公表する)

<http://www.chuo.ac.jp/can/>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」を踏まえ、企業等の関係者の理解を深め、企業等の関係者との連携及び協力の推進に資する専門学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供し、説明する等の取り組みを行なう。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の教育・人材育成の目標、指導計画、経営方針
(2) 各学科等の教育	入学者数、収容定員、在學生数、カリキュラム、進級・卒業要件
(3) 教職員	教職員数、組織、教員の専門性
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組、実習実技等の取組、就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事、課外活動
(6) 学生の生活支援	中途退学、心身の健康、留学生支援、障害者支援
(7) 学生納付金・修学支援	金額、納入時期、経済的支援措置、
(8) 学校の財務	事業報告、貸借対照表、収支計算書、監査報告書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価、改善方策
(10) 国際連携の状況	留学生の受入、外国の学校との交流
(11) その他	厚生施設の案内

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ガイドラインの項目	情報提供方法
(1) 学校の概要、目標及び計画	HPに記載・校内に掲示・シラバスに記載
(2) 各学科等の教育	HPに記載・シラバスに記載・学生生活の手引きに記載
(3) 教職員	HPに記載・組織図に記載・研修計画に記載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	HPに記載・学園新聞の発行
(5) 様々な教育活動・教育環境	HPに記載・学園新聞の発行
(6) 学生の生活支援	HPに記載
(7) 学生納付金・修学支援	HPに記載
(8) 学校の財務	HPに記載・閲覧にて公開
(9) 学校評価	HPに記載
(10) 国際連携の状況	HPに記載・学園新聞に掲載
(11) その他	校内に掲示

<http://www.chuo.ac.jp/can/>

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物飼育学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物飼育学	展示の目的や動物種ごとの様々な展示方法を学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、野生動物の生態や病気などについても学ぶ。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			海洋生物学	海洋生物について学ぶ。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			家畜飼育学	産業動物の種類、品種、飼育管理方法および畜産業など社会との関りについて学ぶ。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			愛玩動物飼養管理士学	ペット（愛玩動物）の習性或正しい飼い方、動物関連法規（動物愛護管理法、ペットフード安全法など）、動物愛護精神などを、多くの人に広められる能力を身に付ける。	1 通年	60	2			○	○		○		
○			生態学	野生動物や自然環境、生態系について学ぶ。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			動物解剖生理学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び生命体としての動物の細胞、組織。臓器レベルの各段階で理解する。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			公衆衛生・関連法規	公衆衛生・関連法規について学ぶ。	1 通年	60	2	○			○		○		
○			校外飼育実習Ⅰ	連携先企業にて、飼育動物の生態や飼養方法などを実践的に学ぶ。	1 通年	240	8				○	○		○	○
○			動物飼育実習	実際に動物の世話することで飼育に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身につけてトレーニングに活かす。	1 通年	60	2				○	○		○	
○			飼育総合演習Ⅰ	飼育管理室、フィールドワークなどを通して動物業界で求められる基礎技術から応用までを実践的に学ぶ。	1 通年	120	4				○	○		○	
合計					10科目		840単位時間(28単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で1,110時間(39単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,950時間(69単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物飼育学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			動物総合実習Ⅰ	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	1後	90	3			○		○	○		○
○			検定対策Ⅰ	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。	1通年	60	2			○	○		○		
○			ビジネスマナー	「電話対応」、「コミュニケーション」、「ビジネスマナー」中心に社会で働くために求められる能力を習得する。	1通年	60	2	○			○		○		
○			就職実務Ⅰ	就職活動に向けて自己理解や協調性、心構えなどを学ぶ。	1前	30	1	○			○		○		
○			就職実務Ⅱ	履歴書の書き方や身だしなみ、心構えなど、就職活動の基礎を身につける。	1後	30	1	○			○		○		
○			特別課外授業	学校行事、ボランティア活動を通じて個々の成長、経験に繋げ人間力の向上を目指す。	1通年	60	2			○	○		○		
○			エキゾチックアニマル学	エキゾチックアニマルの種類や飼養方法、病気などについて学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
○			動物行動学	動物の基礎的な行動学を学び、動物園でのトレーニング方法も学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
○			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。	2前	30	1	○			○		○		
○			動物基礎栄養学	五大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、動物園での飼料について学ぶ。	2前	30	1	○			○		○		
合計					10科目	450単位時間 (14単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で1,110時間(39単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,950時間(69単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物飼育学科) 令和6年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			しつけトレーニング実習	犬の学習理論にもとづいたトレーニングの実践。グループで考え、行動、実践する。	2 通年	60	2			○	○		○		
○			飼育健康管理学	生態にあった飼育環境を学び、飼育管理を通して生体の健康と福祉について学ぶ。	2 通年	60	2	○			○		○		
○			自然環境保護	自然環境について学び保護活動や現状を知る。	2 前	30	1			○	○		○		
○			アクアリウム演習	魚の種類別飼育管理方法や、魚の病気、飼育用品について学ぶ。	2 前	30	1			○	○		○		
○			環境教育学	情操教育を通して動物園の役割を再認識し、運営できる知識を身に付ける。	2 後	30	1	○			○		○		
○			動物園学	展示の目的や動物種ごとの分類、生理、生態などを学ぶ。また、その展示技法や非生体資料の展示についても理解する。更には、動物福祉に関する知識習得を図る。※各専攻に分かれて実施	2 通年					○			○		
○			水族館学	水族館の機能、展示の目的を学ぶ。また、その展示技法やトレーニング、非生体資料の展示についても理解する。※各専攻に分かれて実施	2 通年	60	2	○			○		○		
○			畜産学	1年次での家畜飼育学を基礎に、復習をしつつ家畜飼育ではなく畜産業について学ぶ。※各専攻に分かれて実施	2 通年			○			○		○		
○			校外飼育実習Ⅱ	身につけた知識や技術を牧場や動物園、水族館など様々な職場を通じて、動物関連業務におけるレベルアップを図る。	2 前	120	4			○		○		○	○
○			動物総合実習Ⅱ	動物企業で実際の業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。また、牧場や動物園、水族館など様々な職場での実習を通じて、動物関連業務における広い見識を身につける。	2 通年	180	6			○		○		○	○
合計					10科目		570単位時間 (19単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で1,110時間(39単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,950時間(69単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 動物看護学科) 令和5年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			検定対策Ⅱ	各検定取得を目標にテキストや過去問題集を使用し、繰り返し問題を解くことにより理解を深める。	2 通年	60	2			○	○		○		
○			就職実務Ⅲ	面接対策や企業選択の方法などを学び、実習で経験した企業等の業界調査を行い、就職内定をより意識して実施する。	2 前	30	1			○	○		○		
○			スポーツトレーニング実践	腹筋、背筋などの筋カトレーニングから、ランなどの有酸素運動で持久力を上げる。	2 前	60	2			○	○		○		
○			特別課外授業	学校行事・ボランティア活動等によって単位認定を行う。	2 通年	60	2			○	○		○		
○															
○															
○															
○															
○															
合計					4科目					210単位時間(7単位)		

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
成績評価は、平常点・出席率等及び期末テストの点数を考慮し評価する。尚、卒業基準は、①1年制課程において1年次終了時点で1,110時間(39単位)以上の単位を取得した者。②2年制課程において2年次終了時点で1,950時間(69単位)以上の単位を取得した者。	1学年の学期区分	前・後期
	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。